

NO11 立憲政友会・中国分割と日英同盟

臥薪嘗胆

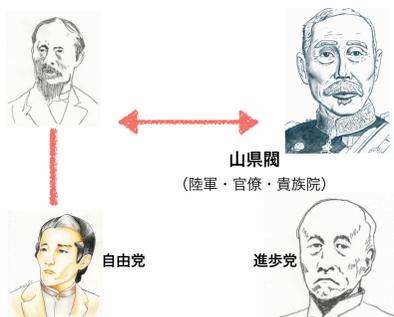
ロシア は、極東ロシア領の安全確保のために朝鮮の現状維持（独立と中立の確保）をはかることを極東政策の主眼としていたため、日本の遼東半島領有は朝鮮の独立を阻害するものと主張し、フランス・ドイツ とともに遼東半島の清への返還を要求した。→承諾…“臥薪嘗胆”の気運 3000 万両賠償。

台湾征服戦争の遂行

軍隊派遣で抵抗を鎮圧して領有（※旅順での虐殺）

→ 台湾総督府 設置 1895 初代総督… 樺山資紀

2 代目児玉源太郎台湾総督のもと後藤新平民政局長（のち民政長官）のもと、武断政治を廃し、旧慣温存策や土地調査事業などが進められ、植民地統治が軌道にのった。



日清戦争後の政局

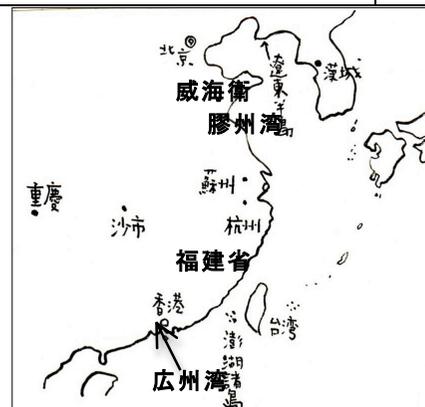
日清戦争後二つの選択肢

藩閥の一部（伊藤博文）と政党とが提携する路線と政党とが提携する路線である。

内閣	藩閥・政治	民党・その他
第2次 伊藤博文 1896	日清戦争は政府と民党の対立様相を変えた。 文官任用令制定 (政党の人間が高級官吏になれる)	自由党と正式に提携 内相 (板垣退助) 【自由党】
第2次 松方正義	1896年、進歩党（日清戦争後に立憲改進黨を中心として結成、党首大隈重信）と提携して成立。	外相 (大隈重信) 【進歩党】 1892年、 <u>貨幣法を制定して金本位制を確立</u> した。
第3次 伊藤博文 1898	1898.6 政府の <u>地租増徴案</u> → 伊藤退陣 ←	自由党・進歩党が連携して否決 → 【憲政党】 結成 どうして議員になれたのか？ 25歳以上の男子で直接国税 15円以上納めた者なのだ！ だから地租上げるのは反対。

日本初の政党内閣

内閣	藩閥・政治	民党・その他
第1次 大隈重信	日本初の <u>政党内閣</u> 誕生 ① <u>憲政党</u> 内閣 (陸海軍両大臣を除く全ての閣僚を憲政党员で占めた) 旧自由党と旧進歩党の対立激化 (地租で結束しただけ政策が違う) * <u>共和演説</u> 事件 文相: <u>尾崎行雄</u> 辞任 → 金権政治を批判 (三井・三菱) 4カ月で退陣	首相・外相: <u>大隈重信</u> 内相: <u>板垣退助</u> <u>隈板(わいはん)内閣</u> 憲政党(旧自由党)と憲政本党(旧進歩党)に分裂
第2次 山県有朋  1898	① 憲政党と一時的に提携政策 ② <u>地租増徴案</u> の成立 1898 (2.5 ⇒ <u>3.3</u> %) ③ <u>文官任用令</u> の改正 1898 高級官僚の自由任用を制限し、政党員の官界進出を抑制した。 ④ <u>軍部大臣現役武官制</u> 定める 現役の大將・中將以外は陸・海軍大臣になれない。 ⑤ <u>治安警察法</u> 公布 1900 結社や集会、社会運動や労働運動に対する規制を強化 山県内閣の政策は今後の政治に重要なので絶対記憶しておく。頻出!	山県の政策に批判的な <u>憲政党</u> は → 伊藤博文に接近伊藤を総裁に立憲政友会を!  ⑥ <u>立憲政友会</u> の成立 1900 看板政策は積極政策 → 公共事業 この行動を批判した <u>幸徳秋水</u> は「自由党を祭る文」を書いた。 出典は『 <u>万朝報</u> 』 (<u>黒岩涙香</u>) 創刊者も出る。



中国分割と日英同盟

日本	清（中国）
列強の <u>中国分割</u> ①地図で確認 ドイツ… <u>膠州湾</u> 【1898 山東半島】 ロシア… <u>旅順・大連</u> 【1898 遼東半島】 イギリス… <u>香港</u> 【1842 九龍半島南部】 <u>威海衛</u> 【1898 山東半島】 フランス… <u>広州湾</u> 【1899】 日本… <u>福建省</u> 【台湾の対岸】 他国への不割譲を清に認めさせた。	② 義和団 事件 1900 清で、排外主義団体義和団が「扶清滅洋」を唱えて、外国人襲撃や列国公使館包囲を実行した。清はこの機会を捉えて列国に宣戦布告したが、列国は連合軍を派遣し清を降伏させ（ <u>北京議定書</u> ）を締結した。これを日本では（ <u>北清事変</u> ）と呼ぶ。 北京議定書の中身 ① <u>賠償金</u> ②北京の公使館所在区域の治外法権③ <u>公使館守備隊</u> の駐留権等を獲得した。

1899.9 アメリカ国務長官 ジョン・ヘイ が、これまでの他国不干渉主義である モンロ一主義 を捨て、中国の三原則を提唱する。機会均等・領土保全・門戸開放。意味するところは各国の勢力範囲内でも通商の自由を確保しようとするものである。中国以外では、1898年（ハワイ）を正式に併合し、米西戦争の結果（フィリピン）（グアム）を獲得した。

閔妃殺害事件

日本軍の 朝鮮王宮占拠 【日清戦争開戦の契機となった】 → 日本軍が閔妃政権を倒して王宮占拠で成立した（大院君）の親日政権は、まもなく閔妃らの親露派に倒された。日清戦争後の三国干渉後に親露派（閔氏）勢力が大院君政権を倒す →（三浦梧楼）公使が公使館守備隊を使って朝鮮王宮を占拠し（閔妃）を殺害 →（高宗）はロシア公使館に逃れ、親露政権誕生。1897年、日本との対抗上国名を【大韓帝国】とする。日本がロシアに警戒感を持ったのは、ロシアが 北清事変 を機に中国東北部【満州】を事実上占領状態において、清に同地域の独占的権益を認めさせており、それが韓国と隣接する地域だったからである。シベリア鉄道の支線である → 東清鉄道 でハルビンから旅順までの支線が建設されたことを記憶したい。

日露戦争の原因

1901年、清と列強との間で外国軍の駐留権などを認めた 北京議定書 が結ばれる。連合軍の主力となった日本の軍力は「極東の憲兵」として列強に評価された一方で、ロシアが 1896年の露清密約で得た 東清鉄道 の保護を名目に満州を軍事占領したため、日露間に緊張が高まり、日露戦争の直接的な原因となる。



日露協商か日英同盟か

日露協商 → ロシアに満州経営の自由を認め、代わりに日本の韓国への優越権を認めさせようという【満韓交換論】 =（伊藤博文・井上馨）



【日英同盟】 → ロシアと対立するイギリスと結んで実力で韓国権益を守ろうとする立場 =（桂太郎）首相。1902年、桂内閣は 日英同盟 を締結。桂らはロシアと交渉しつつ開戦準備を進めていく。



日露戦争の世論

主戦論（近衛篤麿・頭山滿） = 【対露同志会】
 （戸水寛人・小野塚喜平次ら） = 【東大七博士】

満州という巨大な市場をロシアに渡したくないのだ！

『国民新聞』 =（徳富蘇峰）

非【反】戦論

内村鑑三 が日清戦争を義のための戦争と評価していたが日露開戦前夜、戦争廃止論 を『万朝報』に掲載した。『万朝報』 =（黒岩涙香）頻出。

主戦論に傾く「万朝報」を退社して（平民社）を起こし、『平民新聞』を発行した（幸徳秋水・堺利彦）も出る。

（与謝野晶子）の「君死にたまふこと勿れ」の史料にある塚や 旅順 の地名と雑誌『明星』も記憶したい。もう一人の女性反戦詩『お百度詣』（大塚楠緒子）も出た。

君死にたまふことなかれ
 1904年9月号
 旅順口包囲軍の中にある弟を嘆きて
 与謝野晶子
 ああをとうとよ君を泣く 君死にたまふ
 ことなかれ 末に生れし君なれば 親の
 なさけはまさりしも
 親は刃をにぎらせて 人を殺せとをしへ
 しや 人を殺して死ねよとて 二十四ま
 でをそだてしや
 塚の街のあきびとの 旧家をほこるある
 じにて 親の名を継ぐ君なれば 君死に
 たまふことなかれ
 旅順の城はほろぶとも ほろびずとも
 何事ぞ 君知るべきやあきびとの 家の
 おきてになかりけり
 君死にたまふことなかれ すめらみこと
 は戦ひに おほみずからは出でませぬ
 かたみに 人の血を流し 獣の道に死ねよ
 とは 死ぬるを人の誉とは 大みこころ
 の深ければ
 もとよりいかで思われむ
 ああをとうとよ戦ひに 君死にたまふこ
 となかれ